

# タスク スケジューラと robocopy プログラムを利用した Mascot の定期的バックアップ

## 1 はじめに

Mascot システムでは、ハードディスクの障害などのトラブルで Mascot Server の情報が失われても、MASCOT フォルダ以下ファイルのあらかじめバックアップしておくことで、Mascot システムの再インストール後に設定内容や使用データベース、過去の検索結果を復元することができます。

MASCOT関連ファイルのバックアップ方法として、Windowsのタスク スケジューラと robocopy というコマンドでMASCOT以下のファイルを定期的に別ドライブに保存しておくことを推奨しています。MASCOTフォルダの中でsequence フォルダに保存される配列データベースはバージョン名によってファイル名が変わってくるため、他の関連ファイルと同じようにバックアップを行うとバックアップ時に歴代のファイルが残ってしまいます。そのため、MASCOT 以下の その他のフォルダと sequence フォルダでは robocopy コマンドを使用する際に異なる設定が必要です。

また、Mascot Daemon を利用している場合、MASCOT フォルダとは別の場所にあるDaemon のパラメータやログに関するファイルのバックアップを残しておく必要があります。

以上の理由から、弊社ではMascot Server の環境復元用のバックアップとして

- **MascotDataBackup** (MASCOTフォルダ以下のバックアップ)

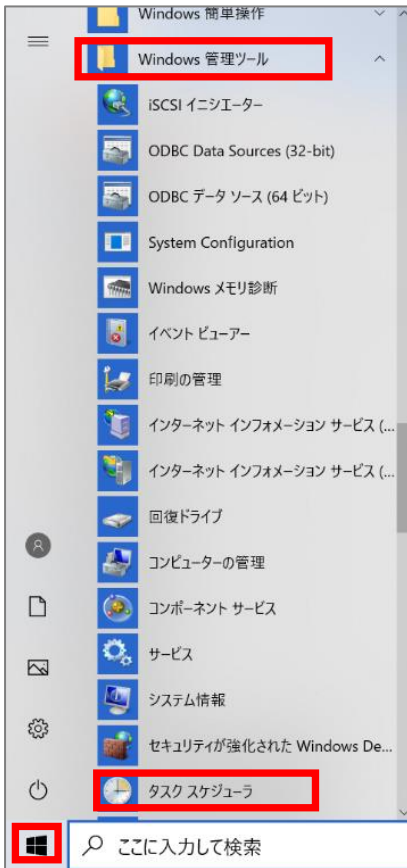
- **MascotDBBackup** (sequenceフォルダのバックアップ)

Mascot Daemon の環境復元用のバックアップとして

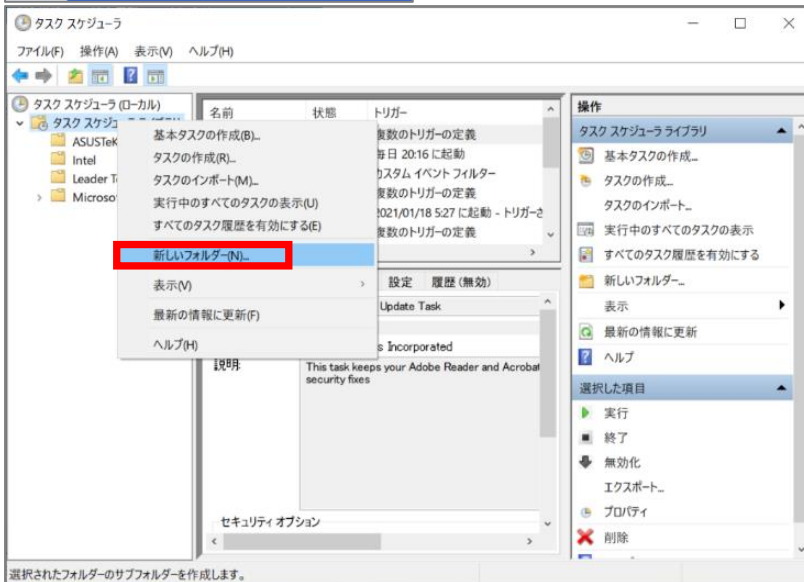
- **MascotDaemonBackup**

の設定をしておくことを推奨しております。この資料では、その方法について説明いたします。

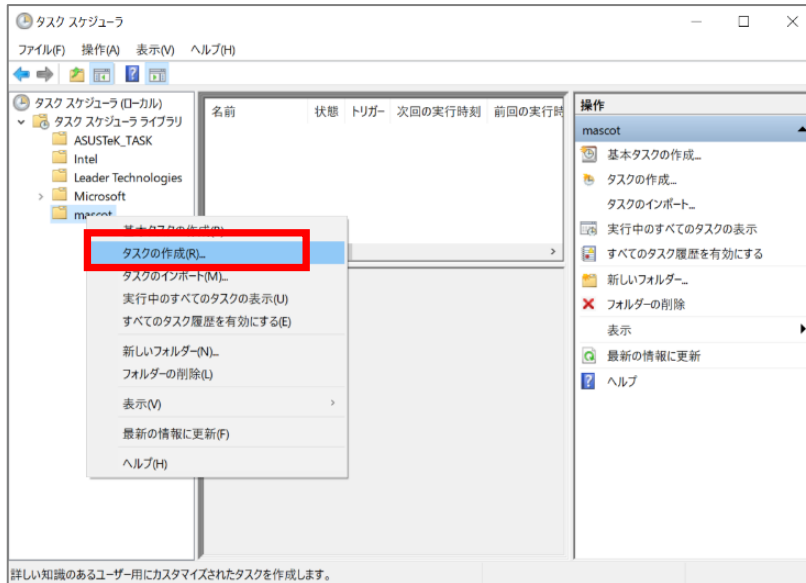
## 2 タスクの作成・設定



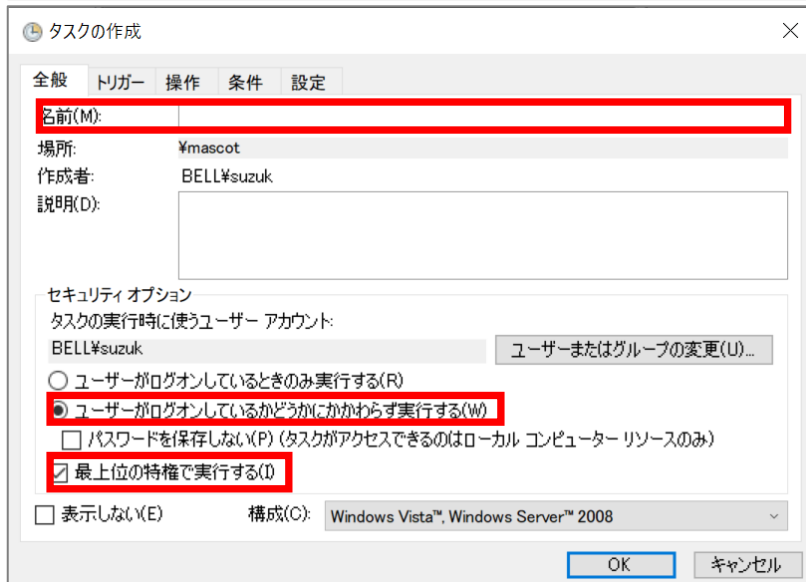
(1) タスク スケジューラを起動します。スタートメニューにある「Windows 管理ツール」フォルダー内の「タスク スケジューラ」をクリックして下さい。



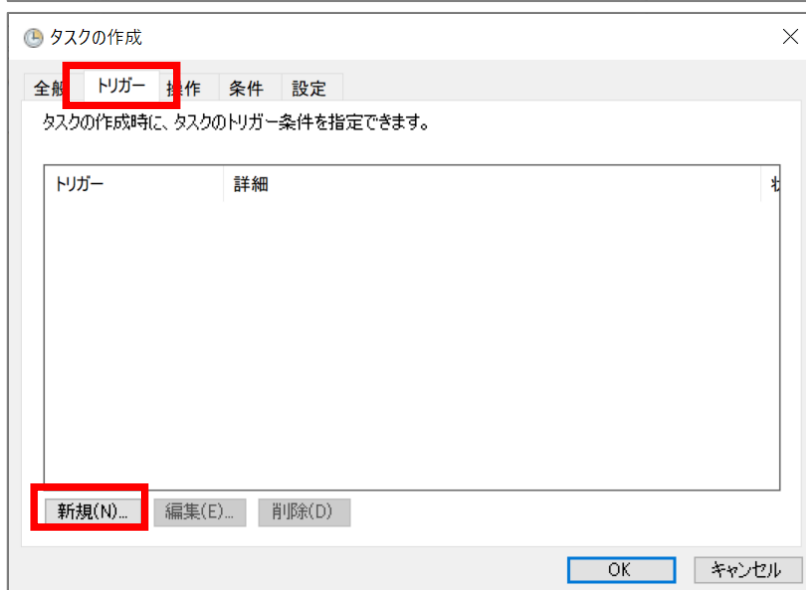
(2) 「タスク スケジューラ ライブラリ」を右クリックして「新しいフォルダー」を選択し、「mascot」という名前のフォルダーを作成します。



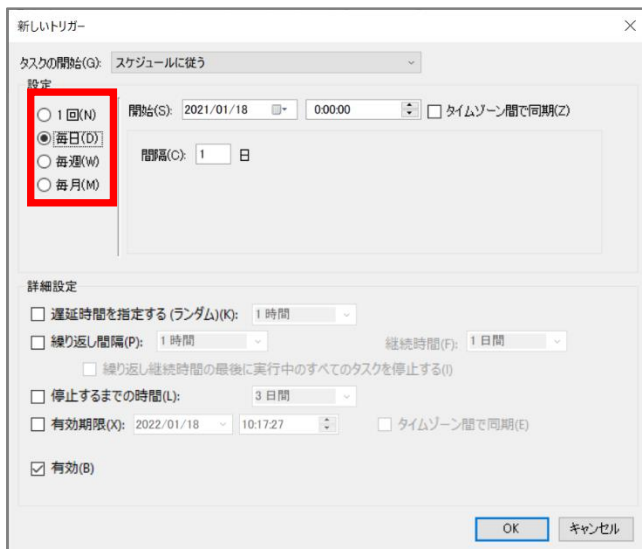
(3) 「mascot」フォルダーを右クリックし、「タスクの作成」をクリックします。



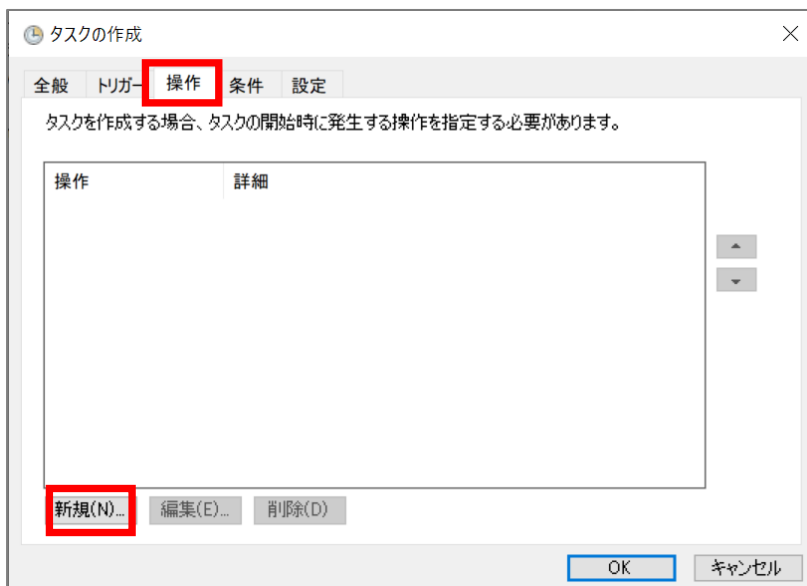
(4) 「全般」タブで、分かりやすい名前を付けて管理しやすいようにします。このとき、「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」を選択し、「最上位の特権で実行する」にチェックを入れます。



「トリガー」タブで「新規」をクリックし、タスクを実行するタイミングを設定します。



実行タイミングの参考として、弊社では  
毎日 0 時に「**MascotDataBackup**」、  
週一回 3 時に「**MascotDaemonBackup**」、  
月一回 6 時に「**MascotDBBackup**」  
の実行を初期設定としております。



「操作」タブで「新規」をクリックし、実際に行わせる操作の設定を行います。

3 つのタスクすべてで「プログラム/スクリプト」を「robocopy」に、「開始」を「C:¥temp」にしてください。それぞれのタスクでの「引数の追加」に入力する引数は以下の通りです。

※オプション間は半角スペースをひとつ入れるようお願いいたします。

#### 「MascotDataBackup」

(Mascot インストールフォルダー名)mascot d:¥backup¥mascot /R:0 /E /XD sequence

例 : C:¥inetpub¥mascot D:¥backup¥mascot /R:0 /E /XD sequence

#### 「MascotDBBackup」

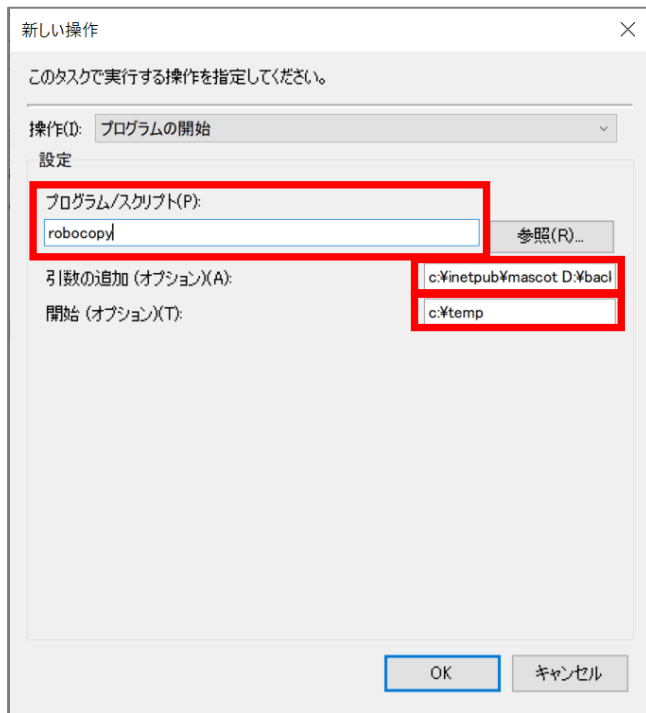
(Mascot インストールフォルダー名)mascot¥sequence d:¥backup¥mascot¥sequence /R:0 /MIR /XD NCBIprot

例 : C:¥inetpub¥mascot¥sequence D:¥backup¥mascot¥sequence /R:0 /MIR /XD NCBIprot

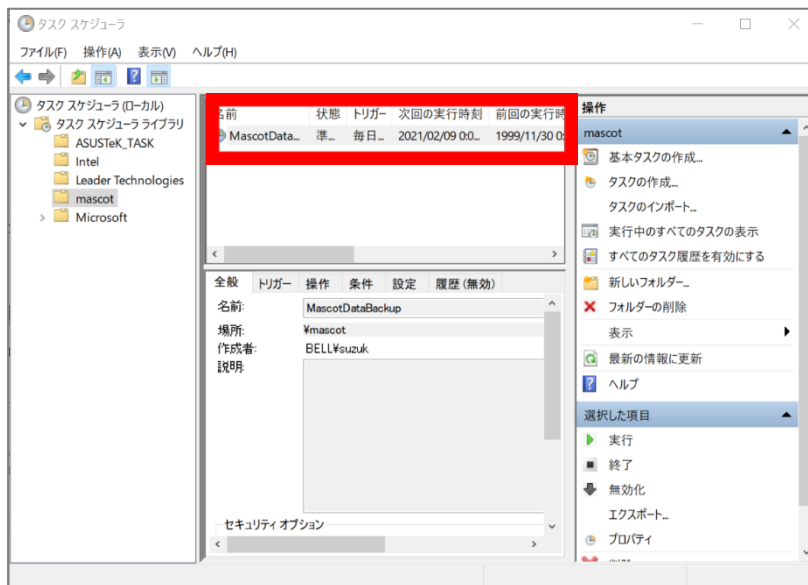
#### 「MascotDaemonBackup」

"C:¥ProgramData¥Matrix Science¥Mascot Daemon" D:¥backup¥daemon /R:0 /E /XD MGF

※robocopy コマンドのオプションの詳細については google などで検索してみてください。



ここまで task の設定が終わったら「OK」を押し、ユーザーアカウントのパスワードを入力して保存してください。

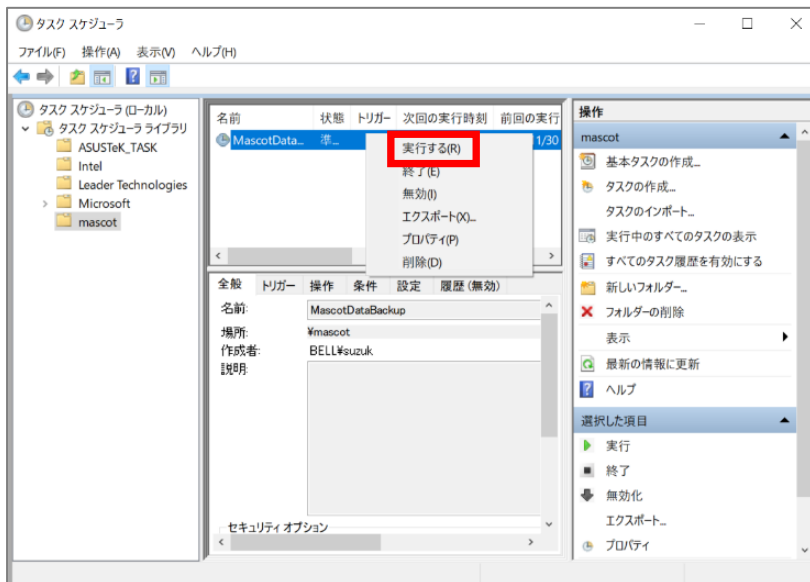


左のように新しいタスクが出来上がっていたら完成です。

### 3 task の動作確認

(1) D:\¥backup フォルダを作成しておきます。

(2) 作成した task を選択し、右クリックして「実行する」を選択してください。



(3) 「状態」が「実行中」になります。こまめにチェックして確認してください。

バックアップ先の、特に data フォルダを見ると更新状況がよくわかります。

無事に実行が完了したら成功です。もし「状態」が更新されない場合はメニューバーの「操作」から「最新の情報に更新」を行ってください。

### 4 お問い合わせ

何かお困りのことがありましたら弊社技術サポートにご連絡ください。



プロテオミクスとともに……

マトリックスサイエンス株式会社

support-jp@matrixscience.com

03-5807-7895

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-6-10 ART ビル 1 階

Copyright 2009 - 2021 Matrix Science Ltd. , マトリックスサイエンス株式会社

本書の一部あるいは全部について、マトリックスサイエンス株式会社から文書による許可を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することを禁じます。